

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年 1月

協議会名: 本庄市交通政策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持補助事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	<p>○H28年9月20日に行った予約方法の変更に関して、PDCAサイクルに基づき変更による利用者からの反応の観察を行い、良好な結果を得た。</p> <p>○新規利用者の獲得のため、広報紙上にPRを兼ねた懸賞クイズを掲載した。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 目標利用者数: 16,000人 H29年度利用者数: 12,979人 利用者満足度: 85.2%	<p>運行開始から4年が経過し、特定の利用者による運行の硬直化が課題の一つである。これまで小さな改善を重ねてきたが、利用者離れを起こさないよう引き続き満足度の向上に取り組むと共に運転免許証返納者等新規利用者の獲得の必要がある。また、予約の電話がつながり難しいという声を受けて、昨年度事業で予約方法の変更(利用日の前の週の月曜日から当日→利用日の1週間前から利用日当日)を行い利用者から以前よりつながり易くなったという良好な反応を得たが、それに伴い電話はつながるが、希望した時間に予約が取れないという要望がでてきているため、運行方法等の抜本的な見直しを検討していく必要がある。</p>
	本庄南地域デマンド			B 目標に対する実利用者数の割合は81.1%で、利用者数は前年度比4.0%減となった。特に昨年度まで利用者が増加傾向にあった児玉山間区域においては利用者数の減少が見られたが、児玉山間部で急速に進む人口減少が影響していると推測する。反して、人口の増加がみられる本庄南区域では前年度比5.7%増となる等、移動手段としての需要の高まりが確認できた。満足度は54.6%から85.2%に増加しており、車社会の中で移動手段を持たない高齢者等の交通弱者の移動手段としてニーズを満たしている。	
	児玉市街地デマンド			B	
	児玉山間地域デマンド			B	
本庄観光株式会社	本庄シャトル便	<p>○シャトル便が運行している本庄駅南口及び本庄早稲田駅間に初めて利用する方や高齢者等にもわかりやすいデザインの案内表示を設置し、周知の徹底に努めた。</p> <p>○運行開始時にはシャトル便のみだった路線に、2事業者が乗り入れているため、今後のシャトル便のあり方について協議会において議論を進めた。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 目標利用者数: 11,000人 H29年度利用者数: 10,948人 利用者満足度: 82.7%	<p>「前回の事業評価結果の反映状況」欄に記載のとおり、シャトル便を取り巻く環境が運行開始時から変化している。実情に合った地域交通網を形成していくという観点から、シャトル便を含めた各交通手段の分担する役割を整理していく必要がある。</p>